第 174号

2021年3月

ラルーラ通信

＜発行＞
中部学院大学
子ども家庭支援センター
〒504-0837　岐阜県
各務原市那加甥田町30-1
TEL058-375-3605
fax058-375-3609

コロナ禍において子どもの姿から学んだこと

中部学院大学　教育学部　子ども教育学科　　西垣　吉之

新型コロナウイルス感染症が身近な話題になり初めて 1 年が過ぎようとしています。「新たな日常を」を余儀なくされた 1 年だったのではないでしょうか？今日はコロナ禍において子どもの姿から学んだことについてある事例から考えてみたいと思います。

事例 1：A 男が鍋に毛糸と紙類を入れてトングで交ぜている。私が「何作ってるの？」と尋ねても無言だった。その後私が「スパゲティーかなあ、ラーメンかなあ」というと「スパゲティー」ととても小さな声で答えてくれた。しばらくして私が他の子のようすを見ていると、A 男が「見て！」といって自分が作ったものを見せに持ってきてくれた。「何ができたの？」と尋ねると、先ほどとは打って変わって「ラーメンスパゲティー」とはっきりと答えてくれた。

事例 2：B 男が「見て！できたよ」と自分が作ったものを私に見せに来てくれた。「おいしそう。どんな匂いがするかなあ？」といって匂いを嗅ぐまねをする。すると B 男は「辛いよ！」と言った。その後私が食べるまねをしながら「ほんとうに辛いねえ！」と言った。しばらくすると、B 男は「お水持ってきたよ！」と言ってトイレットペーパーの芯をアルミホイルで包んだ筒状のものを持ってきてくれた。私はコップに見立てたその物体を水として持ってきてくれたのだと思い「ありがとう」と受けと取り、飲むまねをした。保育が終わってから、先生にその筒状のものが何かを尋ねたところ、2 週間ほど前にみんなで制作した部屋飾りだったことが判明した。

【2 つの事例に共通すること】

「しなやかに受け止めしたたかに生きる」

2 つの事例の子どもの姿は、自分の置かれた状況を判断し、その子なりに順応していく姿と捉えられます。コロナの蔓延は私たちに今までの日常を変えることを余儀なくしました。今までの当たり前を変えるということは、だれにとってもつらいことです。しかし、子どものこうした周囲の人の関わり方に順応しようとする姿を見ていると、どのような状況が起きようと、その状況をしなやかに受け止め、切り替えていくというしたたかな力が育まれていることが読み取れ、頼もしささえ感じます。

「なんとかなるさという感覚の獲得」

この 2 人に共通する育ちとして「なんとかなる」という感覚を持っていると思いますがいかがでしょうか？「なんとかなる」という感覚は、自己を受容する力と深く関連している力です。そうした力は、どんな状況になろうとその状況に立ち向かえる基盤に必要になります。常に評価されて育った人間は、評価基準に応じて対応していかないといけないため、自分を受容する気持ちは低くなるのは想像に難くないでしょう。そのために幼児期には、自分がしていることをなるべく受け止められる体験が求められることは言うまでもありません。そうした背景で育まれた力「なんとかなるさ」という感覚が、非常事態において求められると思いますがいかがでしょうか？

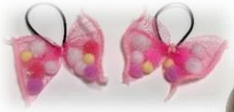
【まとめ】

コロナ禍において私たちはしばらく様々な面で試行錯誤する時期が続ことでしょう。しかし、今回、私が子どもの姿を通して学んだことは、子ども達の生活や遊びを通して培われた力は、ポストコロナ時代における生き抜く力に繋がっていくものだということを感じました。乳幼児期はそうした生きる力の基礎を培う大切な時期だということを改めて感じます。コロナ禍において、リモートワークが急速に進んだように、一人ひとりが、置かれた状況に応じて、自分の中に眠っている新しい価値や生き方を掘り起こし、創造する力が求められています。そのために、人は、自己への評価を固定するのではなく、自分の新たな側面に何歳になっても気づいていこうとする資質こそが求められているのかもしれません。新たな自己への気づき、変わろうとする自分への肯定的なまなざしが、前向きな生き方を保障していくのだと思いますがいかがでしょうか。

こんな作品が届きました　皆さんの作品

　コロナ禍の中　いろいろな方にお子さんと一緒に作品作りを楽しんだり、ママの趣味の作品などいろいろな作品を見せていただきました。 また家族みんなで作った夕食メニューや手作りおやつの情報を教えていただいたりなど　知恵と工夫に溢れていた一年でもありました。ほんの一部作品ですが紹介します。

子どもの作品
「携帯用ミニ石鹸」
固形石鹸を、外出先での手洗い用に小さな小さな形にした作品。固形なので液だれの心配もなく星やハートの形の石鹸は手洗いも楽しくなりそうです。



子どもの作品
「髪飾り」
100 円ショップの材料（ネットやポンポンなど）を利用して作った作品。毛糸や羊毛で作ったポンポンでも可愛らしい髪飾りが出来ていました。

ママの作品
「季節・イベント衣装」」
端切れや安価な布を使ってクリスマスのトナカイ衣装と干支（牛）の衣装。
イベント毎にママのアイデアを盛り込んでのオリジナル衣装です。

ママの作品
「ミニバック」「ネズミの手袋」
手編みのミトン手袋に耳と目鼻をつけてネズミの手袋に。刺繍が施された子ども用ミニバックにはお気に入りのミニカーを入れて。

2021年度を振り返って

　今年度は思うように活動出来なかった一年でしたが、その中でも密を避け個々で楽しめるような活動をそれぞれで楽しみました。主な一年間の様子を挙げ一年間を振り返ります。

　感染症拡大により、緊急事態宣言が発令される中新年度がスタートしました。先の見通しがつかないままも、何度も何度も計画を立て直し開室が出来たのは 7 月初めでした。予約制で人数制限をし 13:00 までの半日開室でのスターです
　この頃、世の中からマスクがなくなり子どもマスクが必要となる兆しでした。手作りマスクを必要な方にお分けしました。
（今もマスク配布は継続中です。洗い替えなど必要な方はいつでもどうぞ）

【砂場デッキで水遊び・砂遊び】
砂場デッキでの水遊びは毎年大盛況。今年は大きなプールは無しにして、個々で小さなビニールプールやタライで遊びました。シャボン玉も楽しかったね

【「笑顔のお花」作り　スタート！】
少しでもみんなの笑顔が増えますようにと願い笑顔のお花を作って飾りました。
年間を通してたくさんの花が咲きました。

【誕生日会】
月１回だった誕生日会を毎週誕生会を行い、個々でお祝いする形にしました。
吹奏楽部の学生の協力も得て、可能な限り毎週バースデイソングのお祝いもしました。

あきふゆ

【コーナー遊び】
コロナ禍で既製の遊具が普段の半分以下としたため代わりに新聞紙プールや風船遊び・製作遊びなどのコーナー遊びを取り入れました。

【ハロウィン行事】
個々に衣装を作り、家族単位で学内パレードをしました。要所要所で実習の学生からプレゼントを個々でもらい楽しみました。

【ラ・ルーラクリスマス会】
学生の演奏の後に今年はみんなで合奏を。オリジナルカホンを個々で作り、全員での合奏は面白かったね。椅子みたいに座ってカホンを叩くのは最初は難しかったけど慣れてくるとパンパン叩いてみんなご機嫌でした。

【学生実習】
今年は特に大勢の学生が様々な形で実習や演習でお世話になりました。お子さんとの関りや保護者の皆さんとの関わりの中で、多くのことを学びました。
ありがとうございました。

【節分　鬼遊び】
活動の工夫をしながら個々での遊びを中心に節分の行事を楽しみました。鬼のポシェットや鬼面製作ではママのアイデアや工夫に脱帽で素敵なオリジナル作品がたくさん出来ました。的当て遊びやダルマ落としならぬ大きな「鬼落とし」も棒を使って倒して遊びました。

【乳児ヨチヨチスペース設置】
１歳前後のお子さんの利用が多くなり、安全で安心して遊んでいただける乳児専用のスペースを設置しました。早々に新しいコーナーでは日々たくさんのお子さんが姿があり、床とは違う柔らかいマットの感触を楽しんだり、傾斜をすべって遊んだり思い思いの遊びを楽しんでいます。

2021 年度 4 月以降の催しは只今検討中です

決まり次第ラ・ルーラのホームページにてお知らせします

よろしくお願いいたします

今年度は　思うように活動出来なかった一年でした
しかし　反対にいろいろなご意見もいただき　新しい発見も見つけることが出来た一年でした

感染症が拡大する中　完全閉室する選択もありましたが
「どうしたら開室できるか」「どのような活動にしたら良いか」など
出来ることを考え　みなさんのアイデアをいただき
その都度考えながら進めて参りました

少しでも繋がれるように　少しでも笑顔になれるように
子育てを楽しみながら　子育て中でも楽しめることを
皆さんと一緒に考えながら進めて行きたいと思っています

来年度はまた以前のように一緒に学びの森へ季節の散歩に出かけたり
様々な活動が再開できることを祈りながら

来年度もどうぞよろしくお願いいたします